

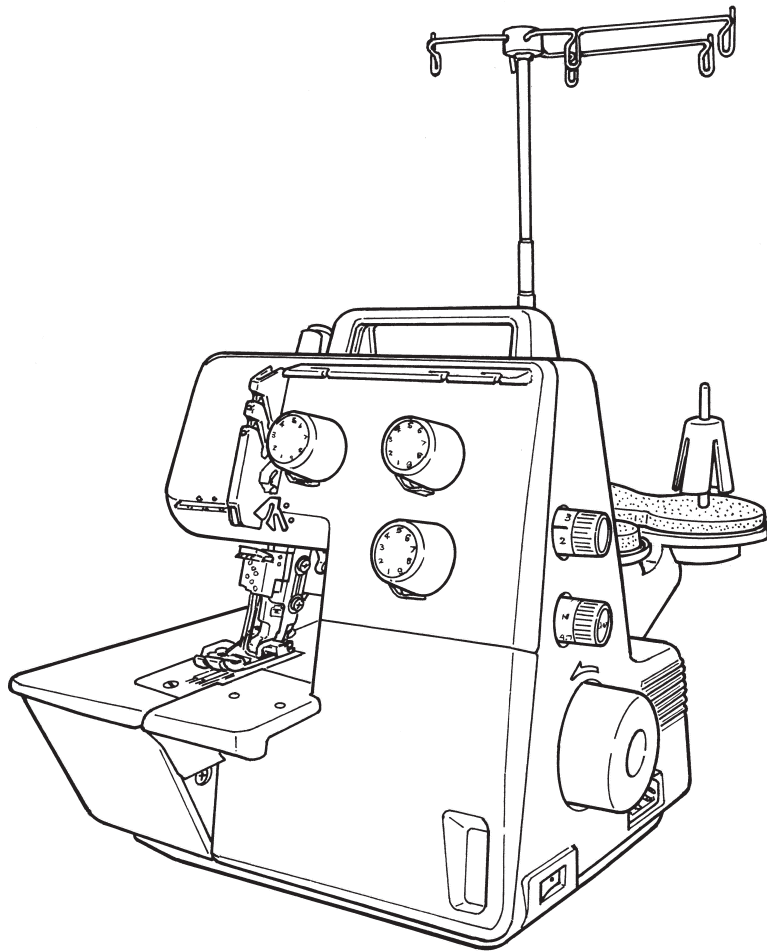
JUKI

3本針・2／3／4本糸（差動調節付き）
カバーステッチミシン

MCS-1500N

取扱説明書

JA



! 注意

安全にご使用していただくため、ご使用前に必ず
この取扱説明書をお読みください。
また、いつでもご覧になれますように保管してください。

この度は、本製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。



ご使用になる前に「安全にご使用していただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。




安全にご使用していただくために

この取扱説明書および製品に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

警告表示は以下のように使い分けています。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。



絵文字の意味は次のとおりです。

	注意すること		感電の危険があります		火災の危険があります		手などへの傷害の危険があります
	してはいけないこと		分解、改造をしないでください		針の下に指を入れないでください		油などを注がないでください
	必ず行うこと		電源プラグをコンセントから抜いてください				

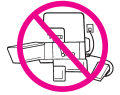
このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。

このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。

This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.

 警告	感電、火災、故障の原因となります。
<ol style="list-style-type: none"> 一般家庭用交流電源 100V の電圧以外では、絶対に使用しないでください。 下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> ● ミシンのそばを離れるとき。 ● ミシンをご使用になったあと。 ● ミシンのご使用中に停電したとき。 ● ミシンをお手入れするとき。 ● ミシンを移動させるとき。 ● 接触不良・断線などで正常に動作しないとき。 ● 雷が鳴りはじめたとき。 	
 注意	感電、火災、けが、故障の原因となります。
<ol style="list-style-type: none"> コントローラーの上に物をのせないでください。 	

2. お客様ご自身での分解、改造はしないでください。
3. ミシンを操作するときはルーパーカバーなどカバー類を閉じてください。
4. ミシンの縫製中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。
5. 針折れの原因になるような曲がった針はご使用にならないでください。
6. けが、針折れの原因になりますので、縫製中に布を無理に引張ったり、押ししたりしないでください。
7. けが、針折れの原因になりますので、まち針を布地に刺したまま縫わないでください。
8. お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用される場合は、特に安全にご使用していただくことをご注意ください。
9. 下記のことを行うときは、電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。
 - 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。
 - 針糸、ルーパー糸をセットするとき。
 - 取扱説明書に記載のあるコントローラーの取り付け、ミシンのお手入れを行うとき。
10. ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。
11. ミシンやコントローラーに下記の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - 正常に作動しないとき。
 - 落下などにより破損したとき。
 - 水に濡れたとき。
 - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - 異常な臭い、音がするとき。
 - 異物が入ったとき。
12. 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
13. 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
14. 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
15. 電源プラグやコントローラを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。コード部分を引張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
16. 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
17. スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。
18. ミシン本体の換気口をふさがしないでください。換気口は必ず壁から 30 cm 以上離して使用し、換気口やコントローラに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。



19. ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。
20. 針の下に指などを入れないでください。また、作業時、ルーパーなど鋭利な部分には触れないでください。
21. ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。
22. ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、破棄してください。
23. ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因になります。



⚠ 警告

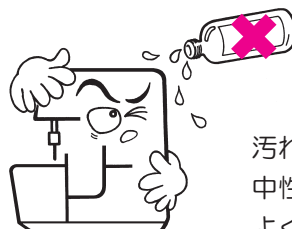
特に、布地と糸と針の組み合わせは、「針の交換」の説明表に従って適切な組み合わせでご使用ください。組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（#11 以下）でぬうと針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。

その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



- シナーなどの溶剤でふかないでください。

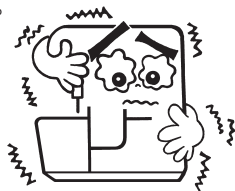


汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

このミシンは半導体電子部品や精密な電子回路を内蔵していますので、下記の状態がおこる場合があります。ご注意ください。

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。



※ミシンの使用温度は5℃～40℃です。直射日光の当たるところや、ストーブ、ろうそくなど火の気のあるもののそばや温度の高いところでは使用しないでください。ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。

もくじ

安全にご使用していただくために	1～3
もくじ	4
各部のなまえ	5
付属品	6

動かす前の準備

糸立て装置のセット	7
糸立て台の取り付け	7
ロック用糸の場合	7
大型糸巻き糸の場合	7
家庭用糸ゴマの場合	7
ネットを使用する場合	7

各部の基本操作

フットコントローラーを取り付ける	8
電源の入れ方	8
押え上げレバーの使い方	9
押えの交換	9
ルーパーカバーの開け方／閉め方	10
布台の開け方／閉め方	10
はずみ車（プーリー）の使い方	10
針の交換	11
針の種類	11

糸のかけ方

糸かけの準備	12
糸案内板の糸かけ	12
糸調子ダイヤルの糸かけ	12
4本糸カバーステッチ糸かけ順序	13～16
ルーパー糸（紫印）をかける	13
右針糸（青印）をかける	14
中針糸（緑印）をかける	15
左針糸（黄印）をかける	16
3本糸カバーステッチ（幅広）	17
3本糸カバーステッチ（幅狭）	18
チェーンステッチ	19

ぬってみましょう

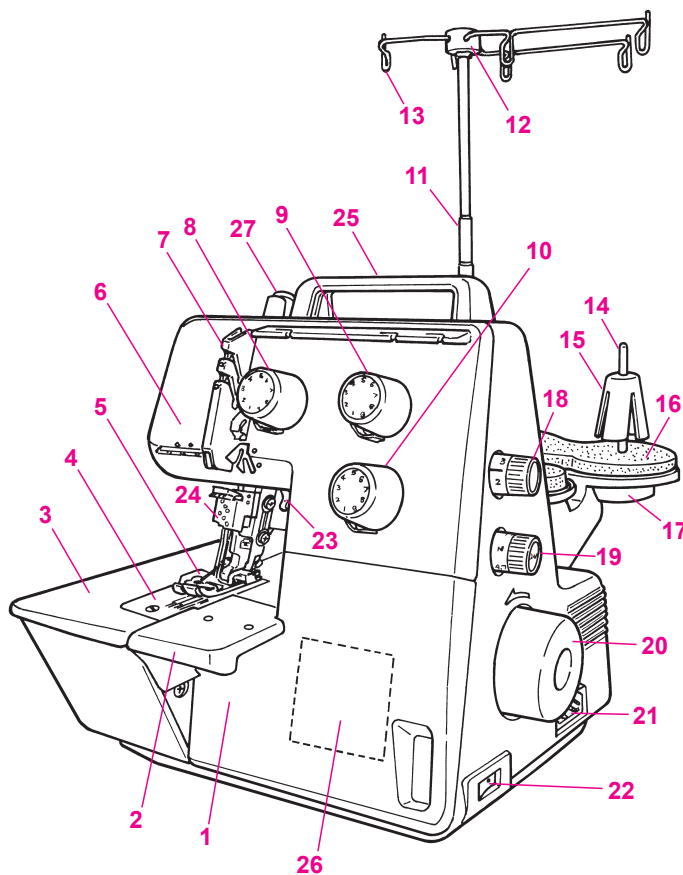
試し縫いをする	20
糸調子の調節	21
糸調子の目安	21
縫い目の長さの調節	22
押え圧の調節	22
差動送り	23
差動送りの調節	24
ステッチ一覧表	25
カバーステッチ縫い終りの糸の始末	26
カバーステッチ使用例	27～29
すそ上げ	27
レース付け	27
ゴムテープ付け	28
三ツ巻縫い	28
リップ付け・伏せ縫い	29
飾り縫い	29
チェーンステッチ縫い終りの糸の始末	30
チェーンステッチ使用例	31
ギャザリング	31
バイアステープ付け	31

お手入れ

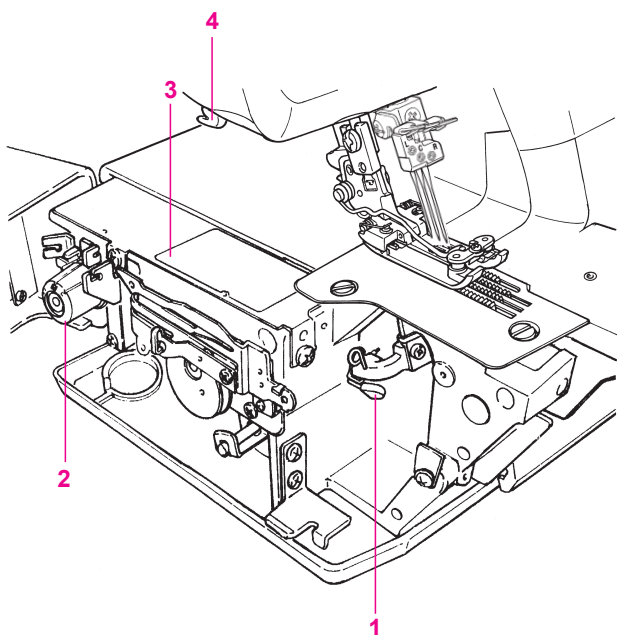
掃除と注油	31
故障かな・・・というときは	32
仕様表	33
別売品のご紹介	34
アフターサービスと保証	裏表紙

各部のなまえ

各部のなまえ



1. ルーパーカバー
2. 補助ベッド
3. 布台
4. 針板
5. 押え
6. LED ライト
7. 天びんカバー
8. 左針糸調子ダイヤル
9. 中針糸調子ダイヤル
10. 右針糸調子ダイヤル
11. 糸かけ棒
12. 糸かけ案内
13. 糸かけ
14. 糸立棒
15. 糸巻振れ止め
16. ウレタンシート
17. 糸立台
18. 送り調節つまみ
19. 差動調節つまみ
20. はずみ車（プーリー）
21. ソケット差込口
22. 電源スイッチ
23. 押え上げレバー
24. 針止め
25. 取っ手
26. 糸通し窓
27. 押え圧調節つまみ



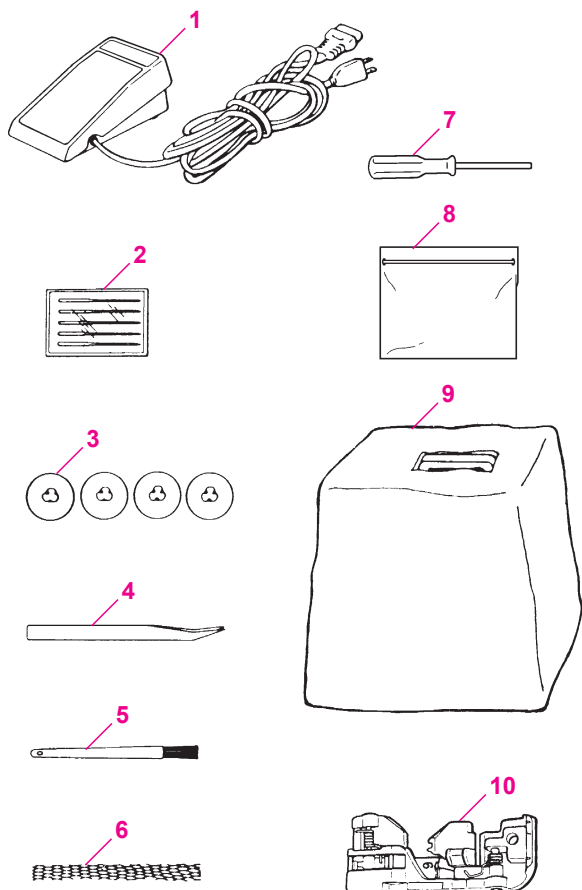
注意

布台を開けるときは電源スイッチを切ってください。

布台を開けたところ

1. ルーパー糸通しつまみ
2. ルーパー糸調子ダイヤル
3. ルーパー糸通し窓
4. 糸切り刃

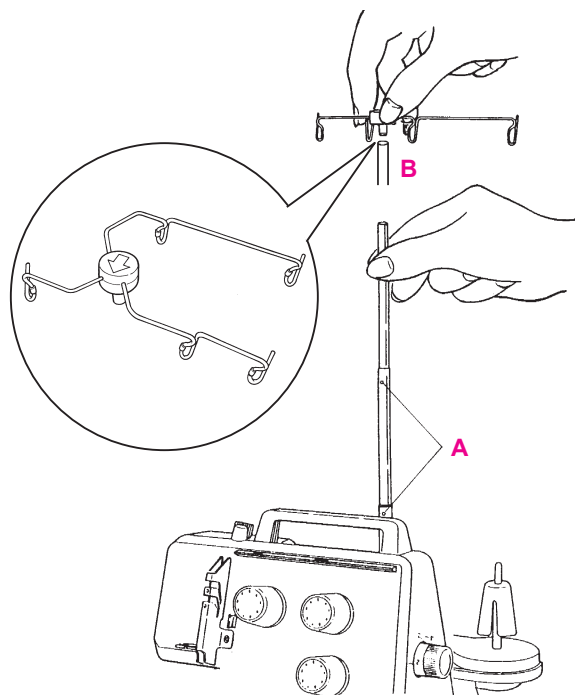
付属品



付属品

1. フットコントローラー
2. 針ケースと針
3. 糸ゴマ当て座
4. ピンセット
5. 掃除用ブラシ
6. ネット
7. 六角ドライバー
8. 付属品袋
9. 頭部カバー
10. チェーンステッチ押え (別売品)

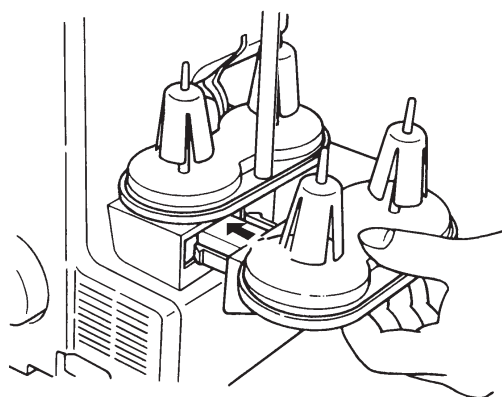
動かす前の準備



糸立て装置のセット

糸かけ棒を引き出し、位置決めストッパー (A) にかみあう (「カチッ」と音がします) まで回します。

糸かけ案内上部の矢印をミシン前側に向けた状態で糸かけ棒に差し込みます。(B)

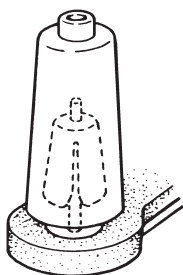


糸立て台の取り付け

ミシンの後ろ側から、付属の糸立て台を本体の糸立て台に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

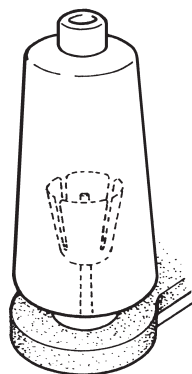
ロック用糸の場合

糸巻振れ止めの上にそのまま糸ゴマを差し込みます。



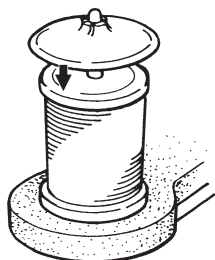
大型糸巻き糸の場合

内径の大きい糸巻き糸は、糸巻振れ止めを逆さにします。



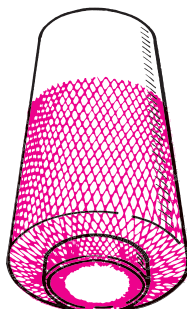
家庭用糸ゴマの場合

糸巻振れ止めを抜きとり、糸ゴマの切り込み部を下に差し込み、糸ゴマ当て座の凸部を上にして差し込みます。

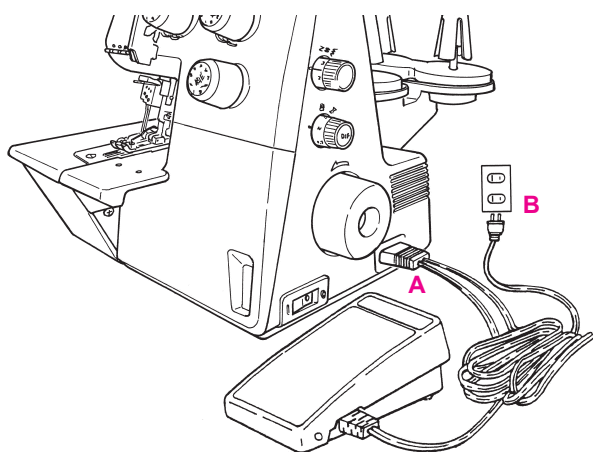


ネットを使用する場合

撚りの強い糸にはネットを使用します。付属のネットを上ルーパー、下ルーパーの糸ゴマにかぶせると糸があらばれなくなります。



各部の基本操作



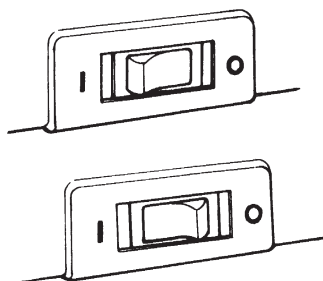
フットコントローラーを取り付ける

1. 電源スイッチを「切」(O 側)にして、フットコントローラーのソケットをソケット差し込み口に差し込みます。(A)
2. 電源プラグを室内コンセントに差し込みます。(B)
3. 電源スイッチを「入」(I 側)にします。
4. コントローラーの上に足をのせます。
コントローラーを強く(深く)踏むと速くなり、弱く(浅く)踏むと遅くなります。



注意

コントローラーのプラグを抜き差しするときは、電源スイッチを切ってください。



電源の入れ方

O 側を押すと電源が切れます。

I 側を押すと電源が入り、ライトもつきます。



注意

ミシンをお使いにならないときは、下記のことを行ってください。

1. 電源スイッチをO (切る) にしてください。
2. 電源プラグは必ず室内コンセントから、はずしてください。
3. コントローラーの上に物を乗せないでください。

押え上げレバーの使い方

押え上げレバーにより押えを上げ下げします。

A：普通に上げた位置

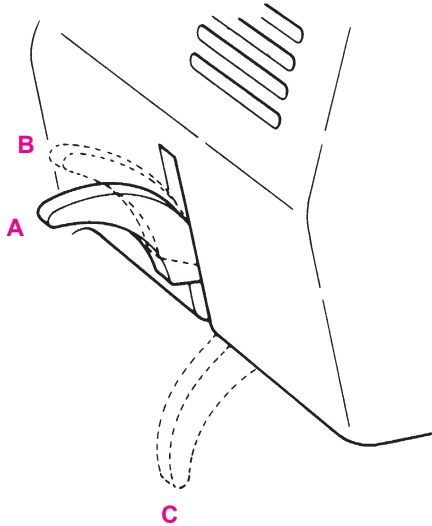
B：押えの交換や厚布など押えと針板とのすき間を必要とするときに上げる位置

C：押えを下げた位置

※ A 位置にレバーを上げると糸調子皿が開きますので糸通しのときは、必ず押えを上げてください。

⚠ 注意

B 位置まで上げているとき、ミシンを動かしたり、はずみ車を回したりしないでください。



押えの交換

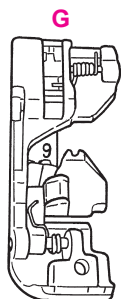
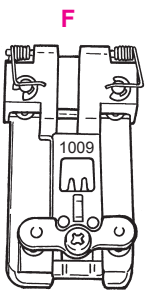
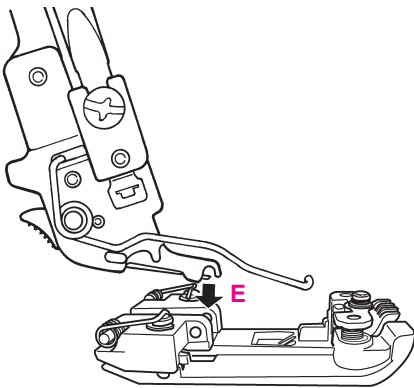
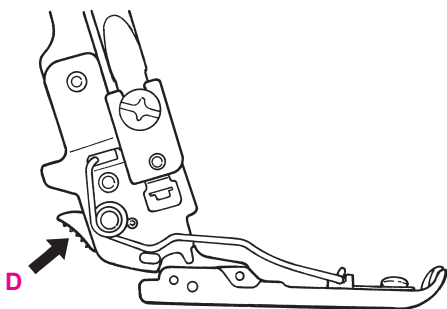
⚠ 注意

押えの交換のときは、電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を回し、針を一番上まで上げます。
 2. 押えを上げます。
 3. D部を押すと押えがはずれます。
 4. 押えをとりつける場合は、押え上げレバーをB位置に上げ、押えを下に置き、押えのピンをホルダーの溝の下に(E)正しく置き、押え上げレバーを下げれば自動的にセットされます。
- ※ E部にピンがセットされたことを確認し、セットされない場合は、D部を押してセットしてください。

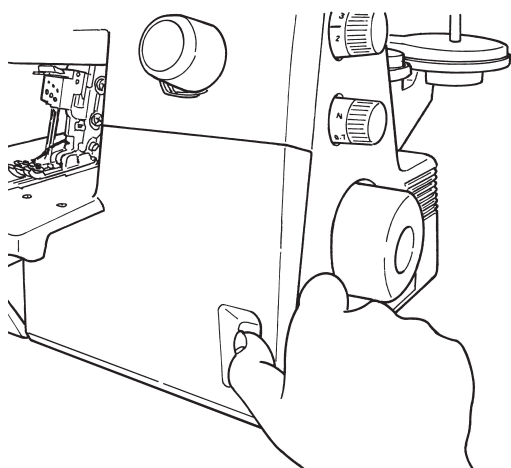
F：カバーステッチ押え

G：チェーンステッチ押え（別売品）



(別売品)

ルーパークバーの開け方／閉め方



⚠ 注意

ルーパークバーを開けるときは、電源スイッチを切ってください。

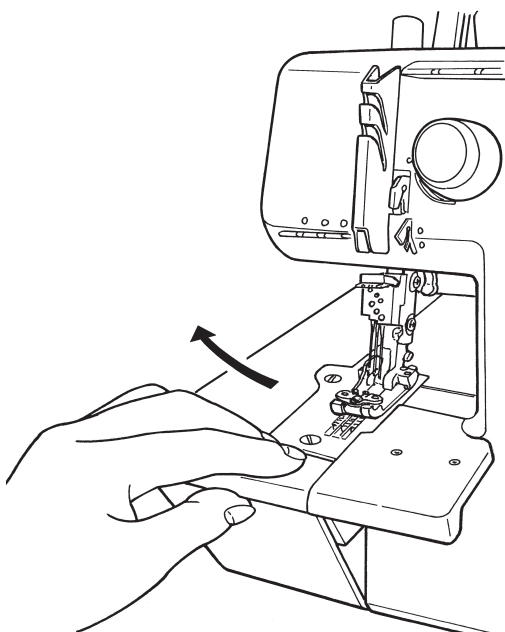
• 開け方

ルーパークバー開閉つまみを、右側に引いてから手前に倒します。

• 閉じ方

ルーパークバーを右に引きながら上にあげ、軽く向こう側に押すと自動的に閉じます。

布台の開け方／閉め方



⚠ 注意

布台を開けるときは、電源スイッチを切ってください。

• 開け方

布台の手前を左側に押すと開きます。

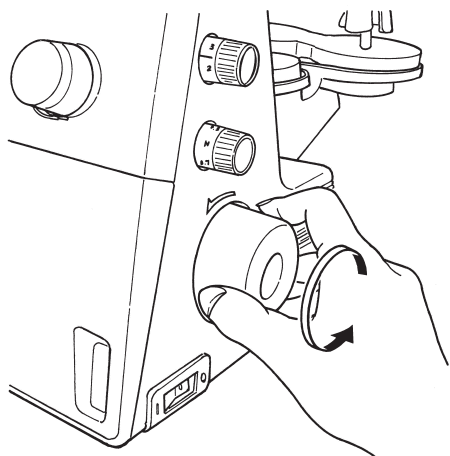
• 閉じ方

布台をミシンの方へ押します。

はずみ車（プーリー）の使い方

はずみ車は手前に回します。

※糸を通したあと、縫い始め、縫い終わりなど、はずみ車を回すときは必ず手前に回してください。



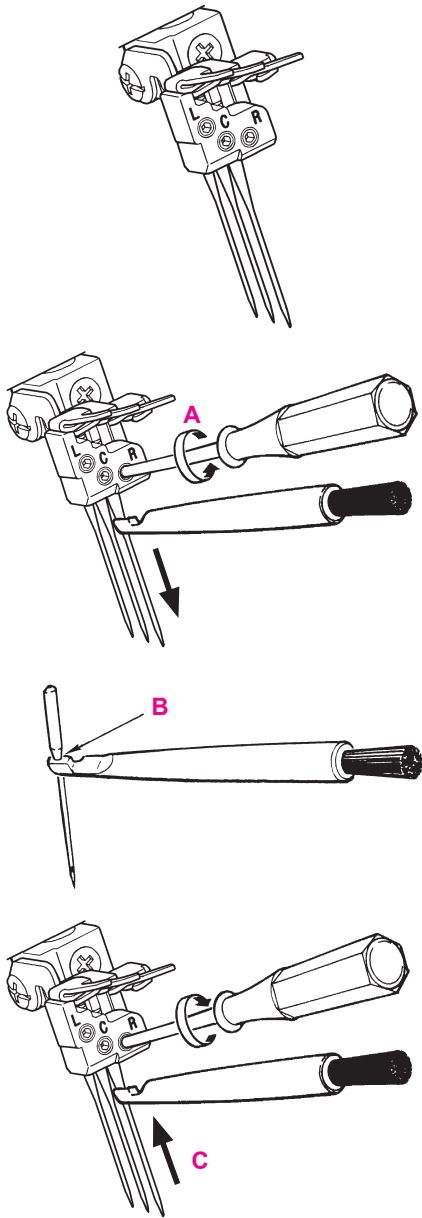
針の交換



注意

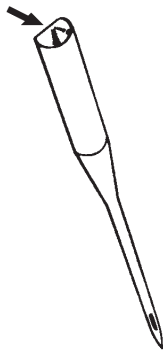
針の交換のときは、電源スイッチを切ってください。

1. はずみ車を回して、針を一番上まであげます。
2. 押えを下げます。
3. 掃除用ブラシの反対側の針穴に針をさし込み、ドライバーで針止めネジをゆるめて針をはずします。(A)
4. 掃除用ブラシの針穴に新しい針の平らな面を向こう側にして針を入れ (B)、針とりつけ溝穴の一番上まで差し込んでから、しっかりとネジを締めます。(C)



針の種類

- 130/705H (家庭用ミシン針)
- 針のサイズは No.70-90 (11 番 -14 番) をお使いください。



糸のかけ方

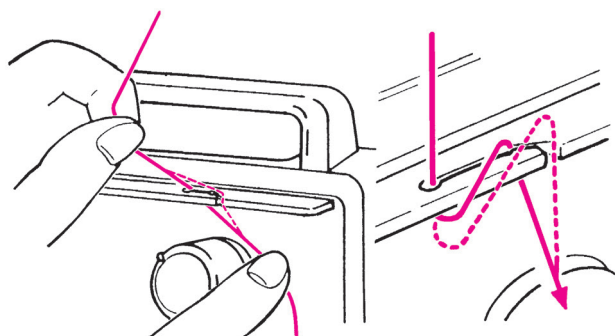
糸かけの準備



注意

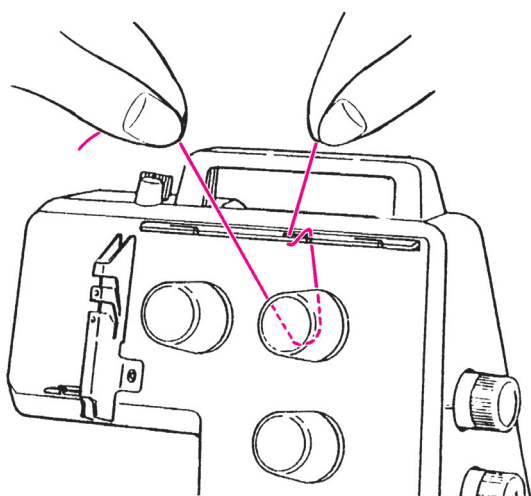
糸かけ、糸通しのときは電源スイッチを切ってください。

1. 糸かけ案内をつけた糸かけ棒を一番上までのばします。
2. 布台を開けます。
3. はずみ車を手前に回し、針を一番上にします。
4. 糸調子皿を開けるため、押えを上げます。
5. 最初にルーバー糸をかけてから、針糸をかけます。



糸案内板の糸かけ

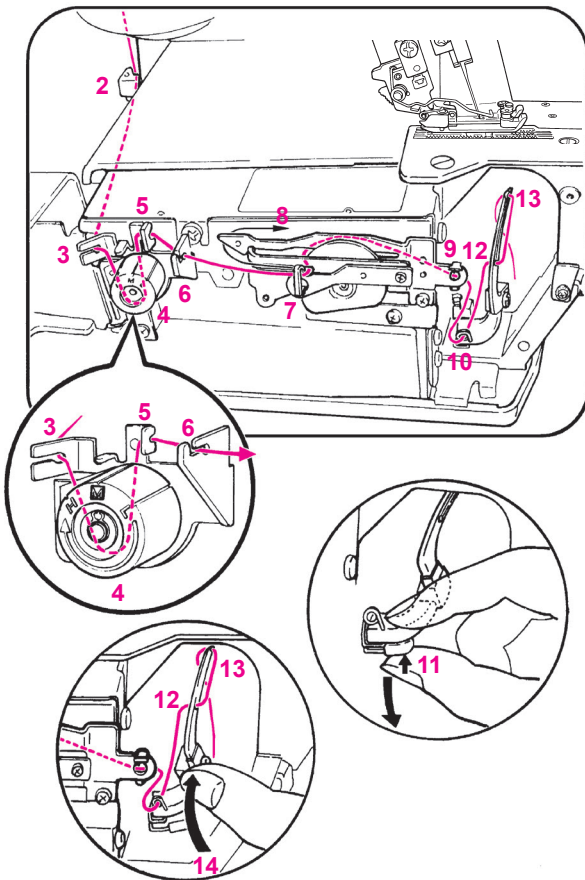
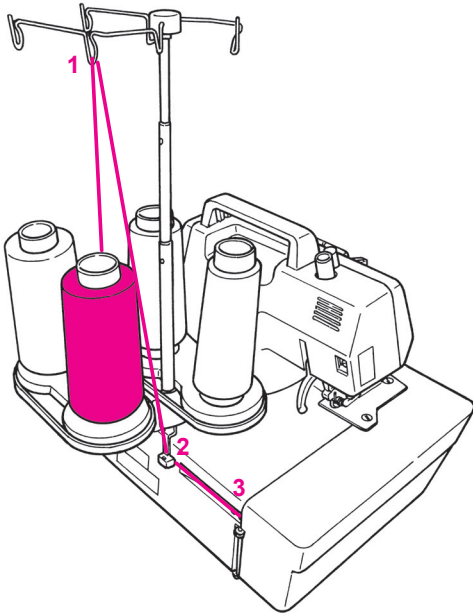
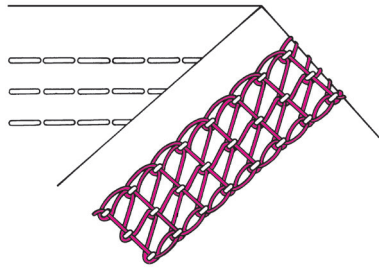
1. 糸案内内部のすき間に糸を入れ、左側に引きます。
2. 糸案内板の下から出た糸を下から上にもって行き、再び糸案内板のすき間に入れて下方に引きます。



糸調子ダイヤルの糸かけ

糸を糸調子皿に正しく入れるために両手で軽く糸を引きます。

4 本系カバーステッチ系かけ順序 (1)



1. ルーパー系（紫印）をかける



注意

糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

図のように、糸ゴマをセットします。

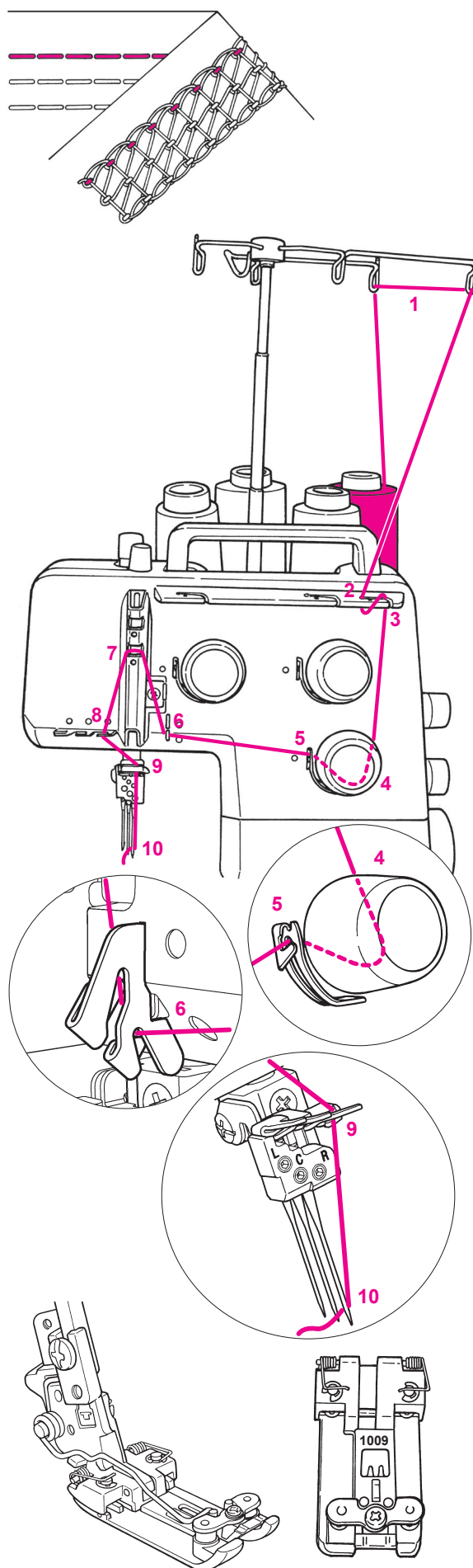
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2,3) 糸かけ案内にかけます。
- (4) 糸調子ダイヤルに糸をかけます。
糸を糸調子皿に正しく入れるために両手で軽く糸を引きます。
- (5,6,7) 糸かけ案内にかけます。
- (8) 糸案内溝に糸をかけます。
- (9) 糸案内にかけます。
はずみ車を手前に回して、針が一番低い位置に来るようにします。
- (10) 糸案内にかけます。
- (11) ルーパー系通しつまみを指で押し上げて、指ではさみながらルーパーを下方向へ倒します
- (12) ルーパーの後ろ側から前へ糸を穴に通します
- (13) ルーパー系穴の前から後ろ側に糸を通します。
糸はルーパー系穴から約 10 cm 引き出して垂らしておきます。
- (14) ルーパーを押し上げて、もとの位置に戻します。
はずみ車回して、針を最も高い位置に上げます。

参考：

ルーパー系をかけ直す必要がある場合は、まず針糸を針のところで切り、針穴から外します。

その後ルーパー系をかけ直し、次に針糸をかけます。

4 本糸カバーステッチ糸かけ順序 (2)



2. 右針糸（青印）をかける



注意

糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

図のように、糸ゴマをセットします。

(1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。

(2,3) 糸案内板にかけます。

(4) 糸調子ダイヤルに糸をかけます。

(5, 6) 糸案内にかけます。

(7) 天びんカバーにかけます。

(8) 糸案内にかけます。

(9) 針棒糸案内にかけます。

(10) はずみ車を回し、針が最上にくる位置で、右針の針穴に糸を通します。

糸を約 10 cm 引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

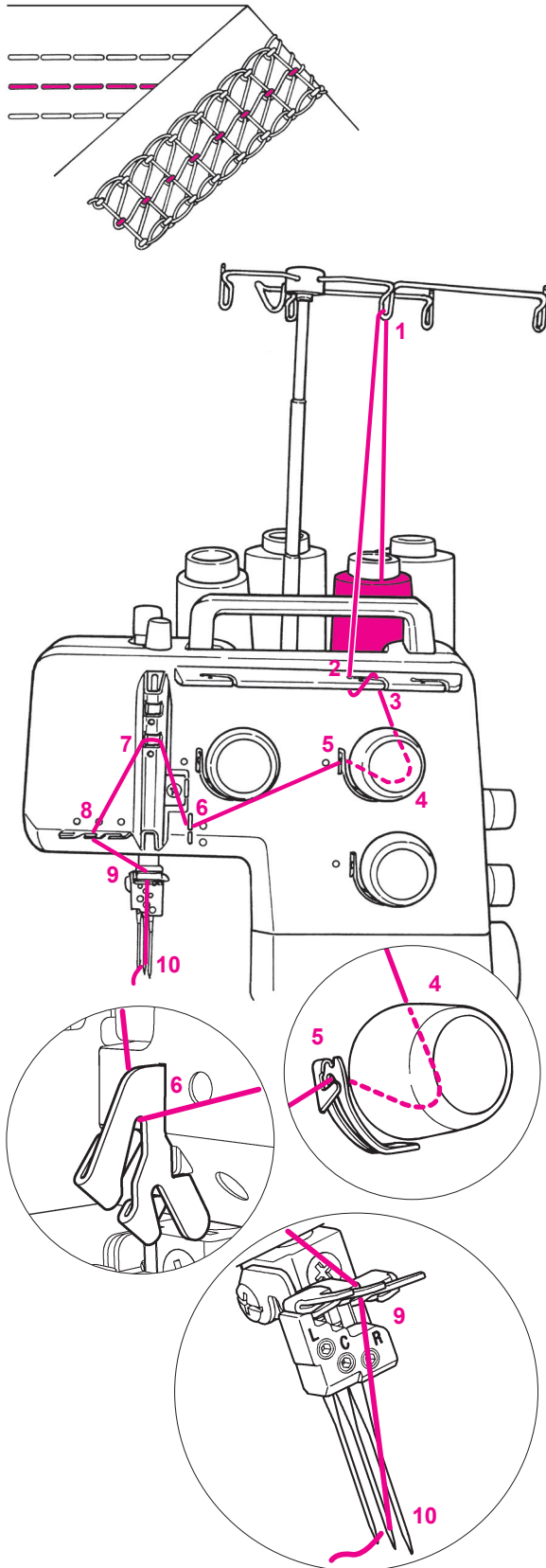
(11) カバーステッチ押えがセットされていることを確認します。

参考：

ルーパ糸をかけ直す必要がある場合は、まず針糸を針のところで切り、針穴から外します。

その後ルーパ糸をかけ直し、次に針糸をかけます。

4 本系カバーステッチ糸かけ順序 (3)



3. 中針糸（緑印）をかける



注意

糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

図のように、糸ゴマをセットします。

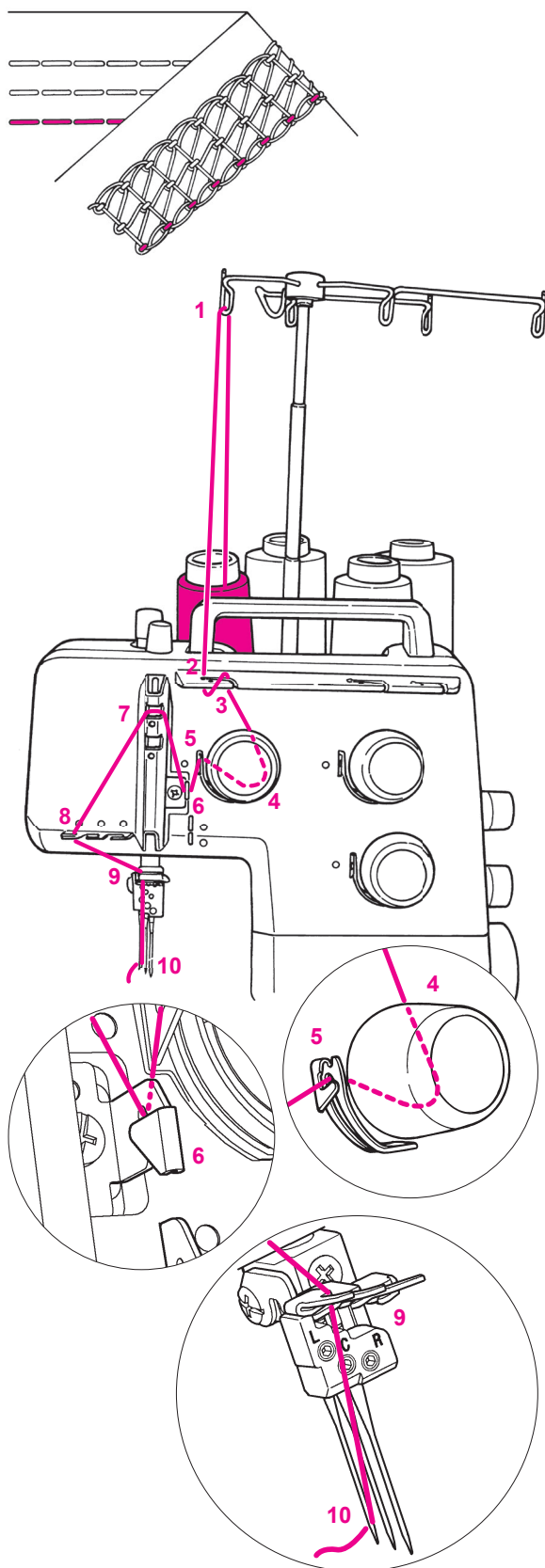
- (1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。
- (2,3) 糸案内板にかけます。
- (4) 糸調子ダイヤルに糸をかけます。
- (5, 6) 糸案内にかけます。
- (7) 天びんカバーにかけます。
- (8) 糸案内にかけます。
- (9) 針棒糸案内にかけます。
- (10) はずみ車を回し、針が最上にくる位置で、中針の針穴に糸を通します。
糸を約 10 cm 引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

参考：

ルーパ糸をかけ直す必要がある場合は、まず針糸を針のところで切り、針穴から外します。

その後ルーパ糸をかけ直し、次に針糸をかけます。

4 本糸カバーステッチ糸かけ順序 (4)



4. 左針糸（黄印）をかける



注意

糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

図のように、糸ゴマをセットします。

(1) 糸ゴマから真上の糸かけ案内に後から前へかけます。

(2,3) 糸案内板にかけます。

(4) 糸調子ダイヤルに糸をかけます。

(5, 6) 糸案内にかけます。

(7) 天びんカバーにかけます。

(8) 糸案内にかけます。

(9) 針棒糸案内にかけます。

(10) はずみ車を回し、針が最上にくる位置で、左針の針穴に糸を通します。

糸を約 10 cm 引き出して押えの下に入れ、後ろに出します。

参考：

ルーパ糸をかけ直す必要がある場合は、まず針糸を針のところで切り、針穴から外します。

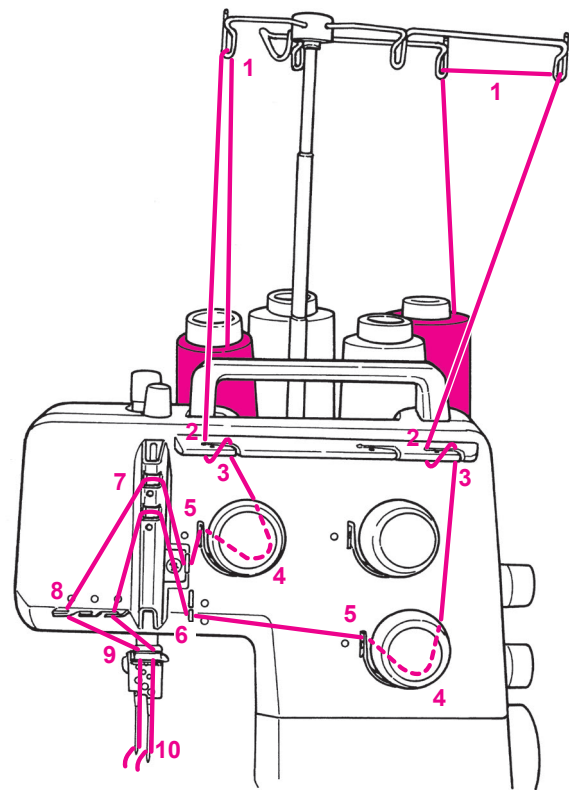
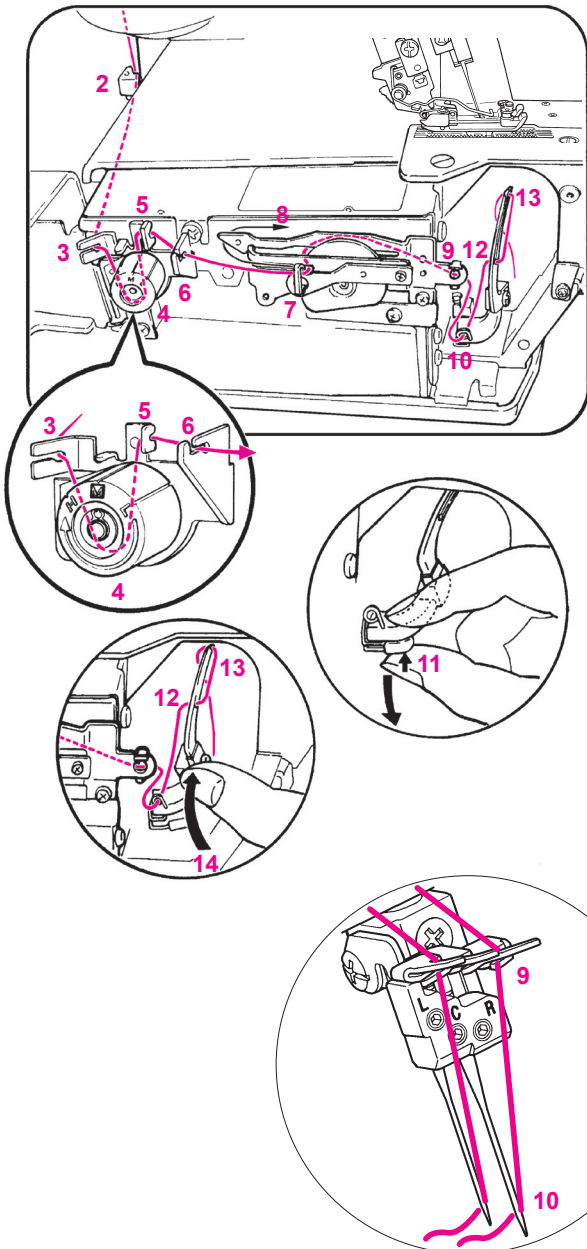
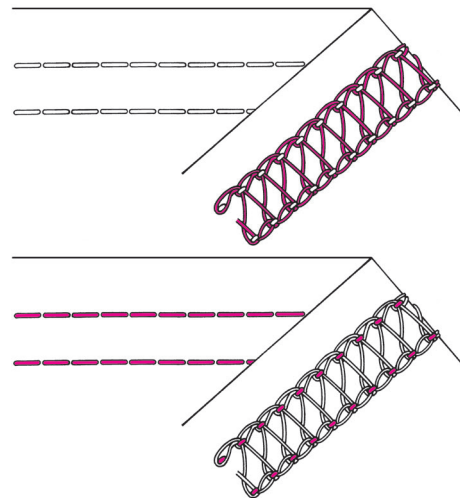
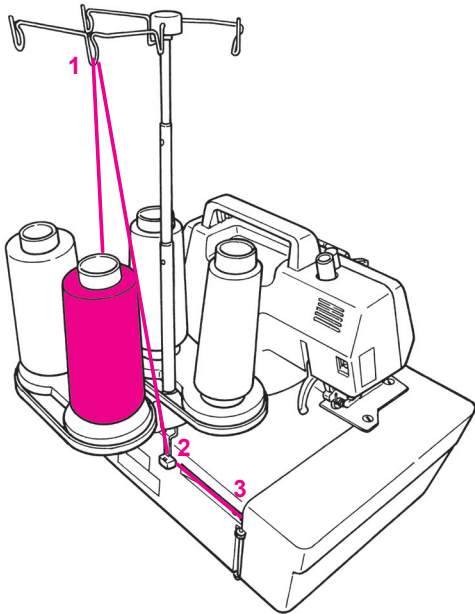
その後ルーパ糸をかけ直し、次に針糸をかけます。

3本糸カバーステッチ (幅広)

3本糸カバーステッチ (幅広) の準備

⚠ 注意 糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

- ルーパーの糸かけ (紫印)
- 右針を使います (青印)
- 左針を使います (黄印)



3本糸カバーステッチ (幅狭)

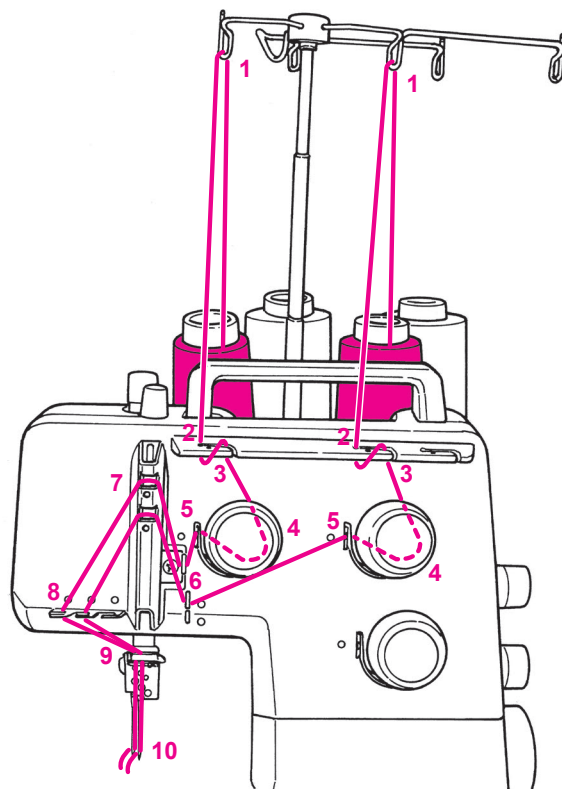
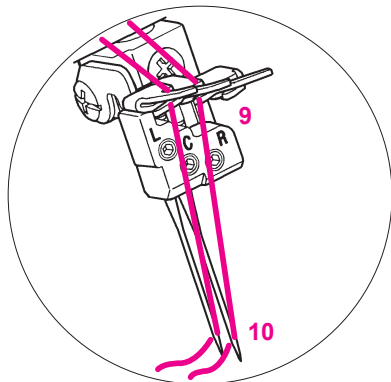
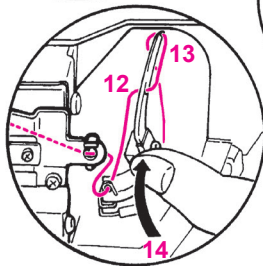
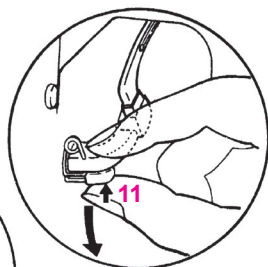
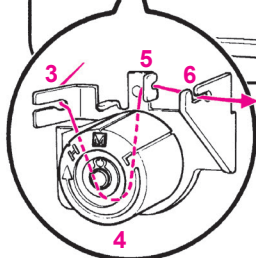
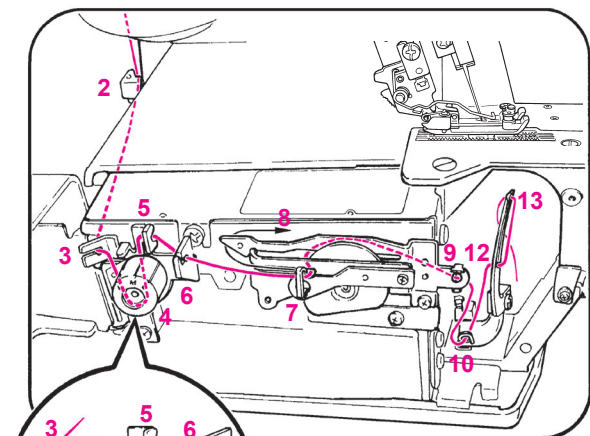
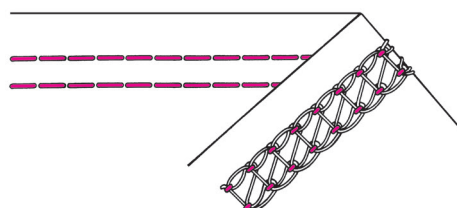
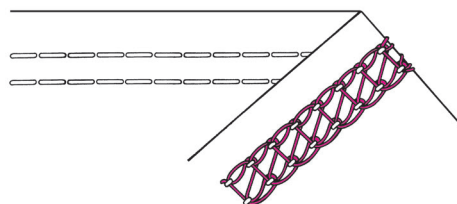
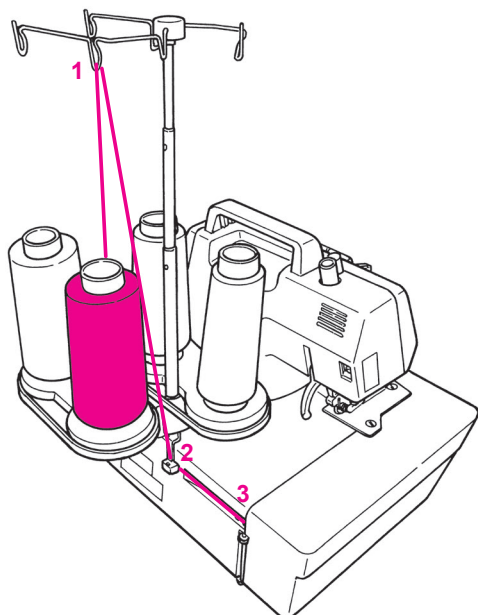
3本糸カバーステッチ (幅狭) の準備



注意

糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

- ルーパーの糸かけ (紫印)
- 左針を使います (黄印)
- 中針を使います (緑印)



チェーンステッチ

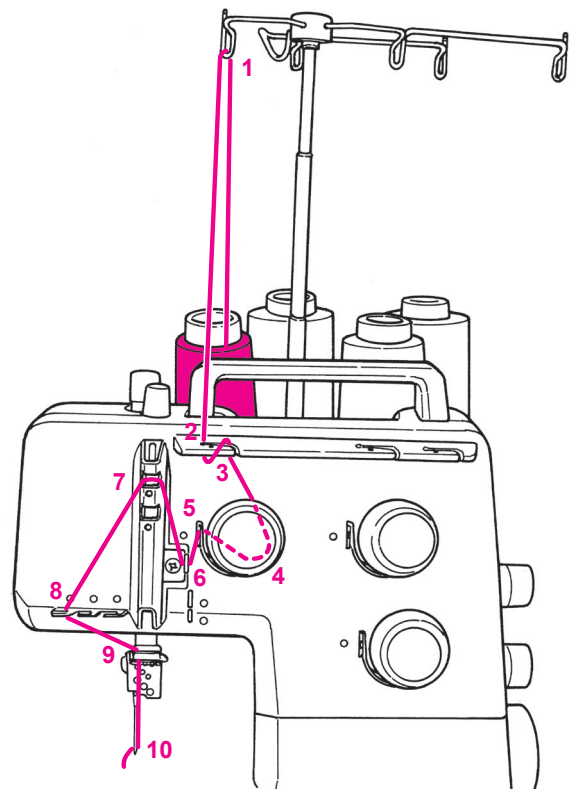
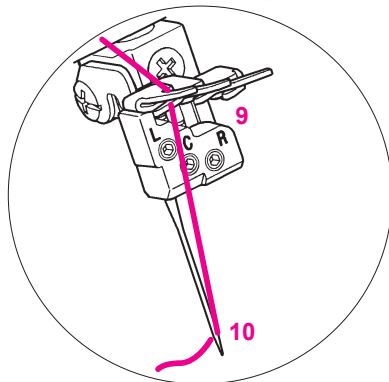
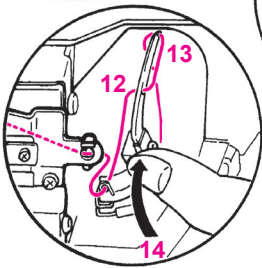
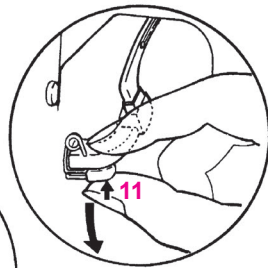
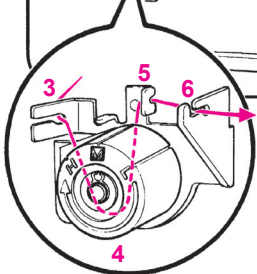
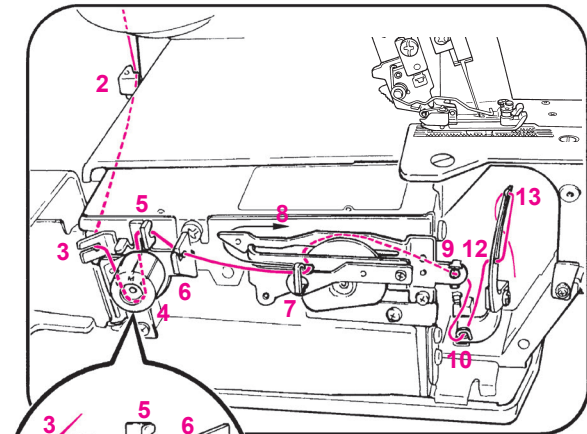
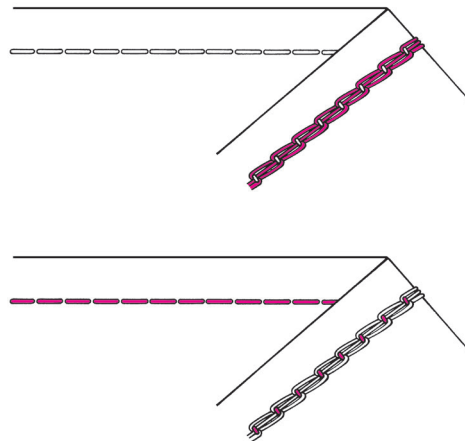
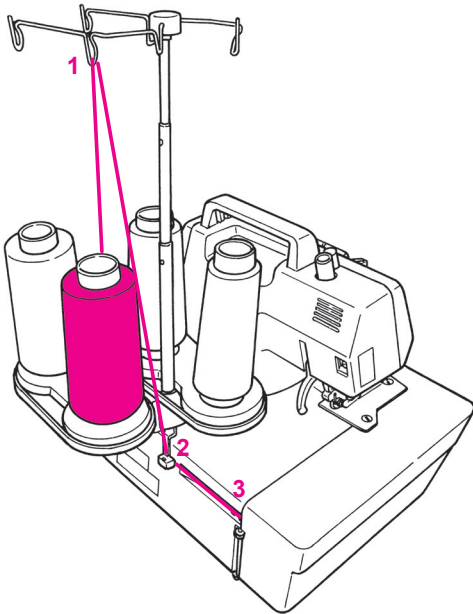
チェーンステッチの準備



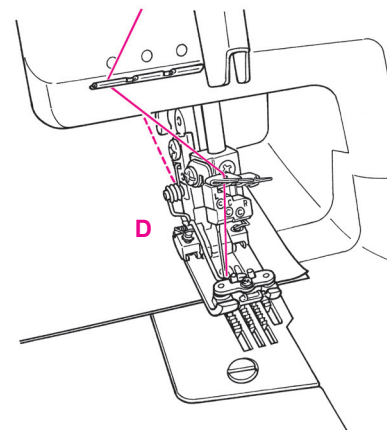
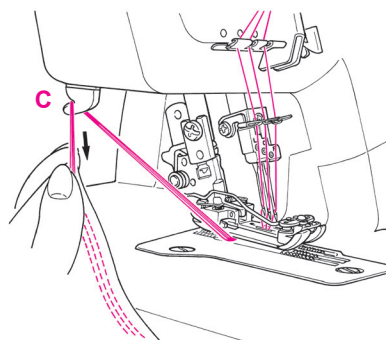
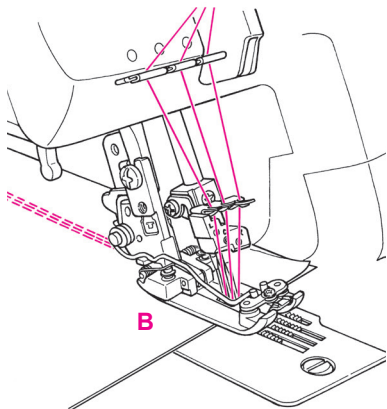
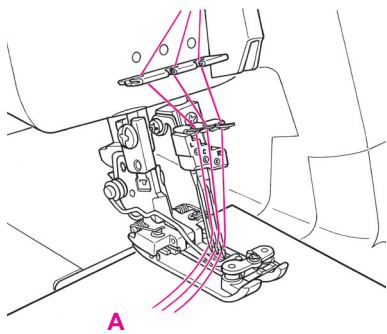
注意

糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。

- ルーパーの糸かけ（紫印）
- 左針を使います（黄印）



ぬってみましょう



試し縫いをする

糸かけが終わったら、二枚合わせの布地を使い、縫い目や糸調子が正しいかどうかを調べます。

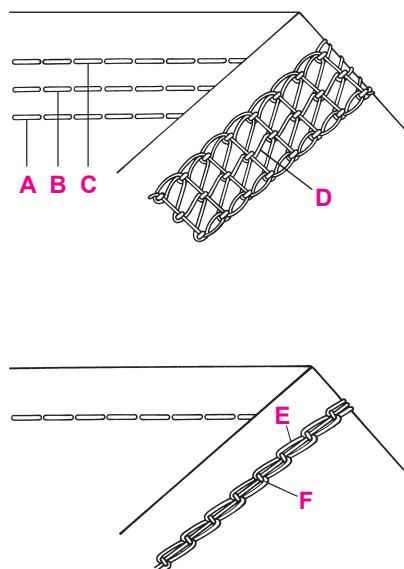
カバーステッチの試し縫い

1. 電源を入れます。
2. 糸調子を「3～5」にします。
3. 縫い目の長さを「3」にします。
4. 差動送り比を「N」にします。
5. 押えを上げて、押えと針の下に布地をセットします。(A)
6. 押えを下げます。
7. 最初の1針は、はずみ車を手前へ回します。
8. 縫います。
9. 縫い終わりの位置で、はずみ車を手前へ回し、針が一番低い位置に来るようにします。(B)
その後、はずみ車を後ろ側へ回し、針を最も高い位置に上げます。
この時に初めて、針糸がルーパーから外れて布が取り出せるようになります。
10. 押えを上げます。
11. 縫い目がほつれないように押えながら布を左側から引き出します。
12. 糸切り刃で糸を切ります。(C)

チェーンステッチの試し縫い

1. 電源を入れます。
2. 糸調子を「3～5」にします。
3. 縫い目の長さを「2.5」にします。
4. 差動送り比を「N」にします。
5. 押えを上げて、押えと針の下に布地をセットします。(A)
6. 押えを下げます。
7. 最初の1針は、はずみ車を手前へ回します。
8. 縫います。
9. 縫い終わりの位置で、はずみ車を手前へ回し、針が一番低い位置に来るようにします。(D)
その後、はずみ車を後ろ側へ回し、針を最も高い位置に上げます。
この時に初めて、針糸がルーパーから外れて布が取り出せるようになります。
10. 押えを上げます。
11. 縫い目がほつれないように押えながら布を左側から引き出します。
12. 糸切り刃で糸を切ります。(C)

糸調子の調節



カバーステッチ

右針糸が布の裏側で浮いている場合：
右針糸調子（青印, C）を強くします。
中針糸布の裏側で浮いている場合：
中針糸調子（緑印, B）を強くします。
左針糸布の裏側で浮いている場合：
左針糸調子（黄印, A）を強くします。
ルーパー糸が布の裏側で緩んでいる場合：
ルーパー糸調子（紫印, D）を強くします。（糸調子ダイヤルは布台の中）

チェーンステッチ

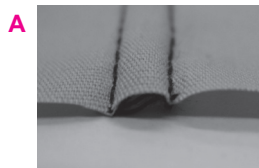
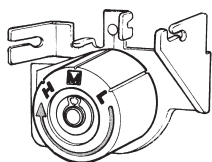
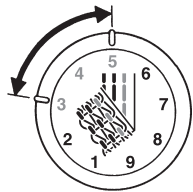
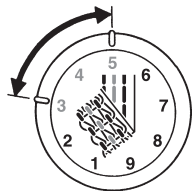
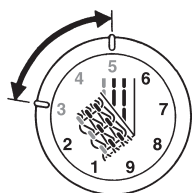
針糸が布の裏側で浮いている場合：
左針糸調子（黄印, F）を強くします。
ルーパー糸が布の裏側で緩んでいる場合：
ルーパー糸調子（紫印, E）を強くします。（糸調子ダイヤルは布台の中）

糸調子の目安

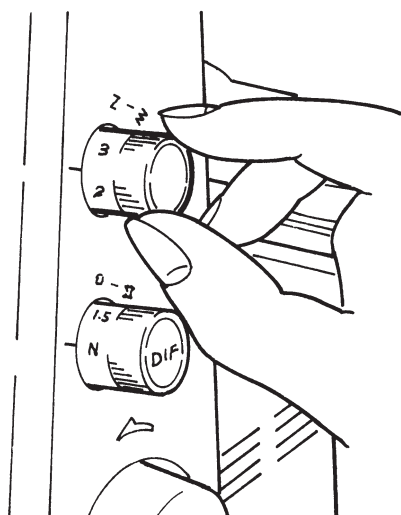
糸調子は、様々なタイプの糸に合わせて調節することができます。

標準的な針糸調子：3-5
針糸調子を強くするには：6-9
針糸調子を弱くするには：2-1

標準的なルーパー糸調子：M
ルーパー糸調子を強くするには：H
ルーパー糸調子を弱くするには：L（縫い目がAのようになった場合）
ルーパー糸調子ダイヤルは布台の中にあります。



ミシンの調節と設定

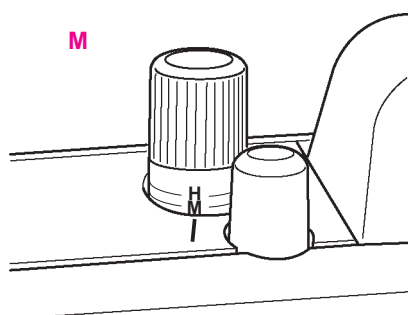


縫い目の長さの調節

縫い目の長さは「1～4」の範囲で調節できます。
縫製しながら調節することができます。

基本的な縫い目の長さ：

- カバーステッチ：3
- チェーンステッチ：2.5



M

押え圧の調節

押え圧は最も縫製用途に適した設定に調節されています。
調節する場合は、押え圧調節つまみを回します。

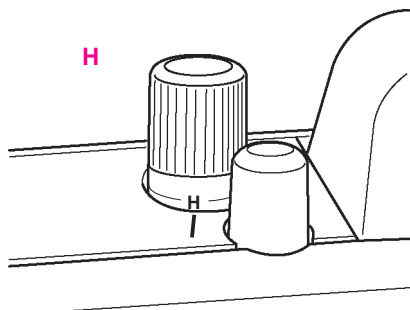
基本的な押え圧：M

押え圧を強くする：H

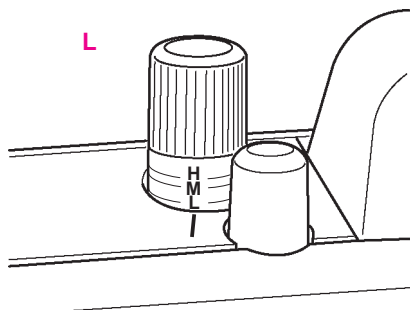
(デニム、ツイード、堅いリンネルなど厚手の布地)

押え圧を弱くする：L

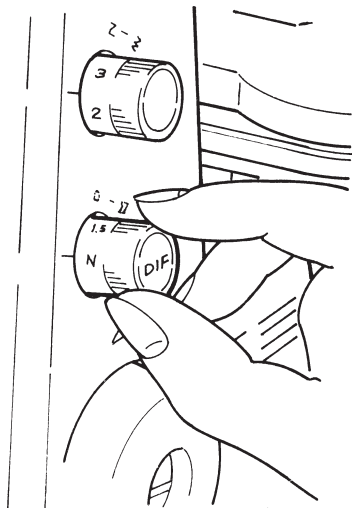
(ジョーゼット、ローン、トリコットなど薄手の布地)



H



L



差動送り

前歯 (A) と後歯 (B) 2 つの送り歯があります。
2 つの送り歯は独立して移動し、それぞれ移動する距離を調節することができます。

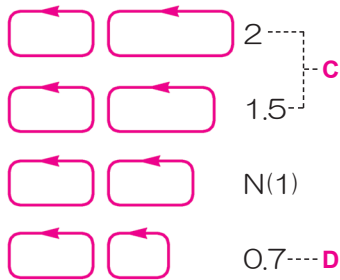
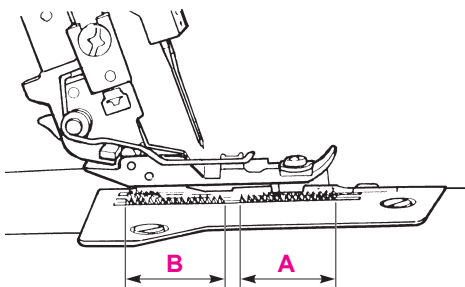
縫い縮みや、縫い伸びしやすい布地は、差動調節つまみを使うと平らに美しく仕上がります。

縫い伸びしやすい布地 (ニット地など)

前歯の移動距離を、後歯の移動距離よりも大きくします。(C)

縫い縮みしやすい布地 (ナイロンなど)

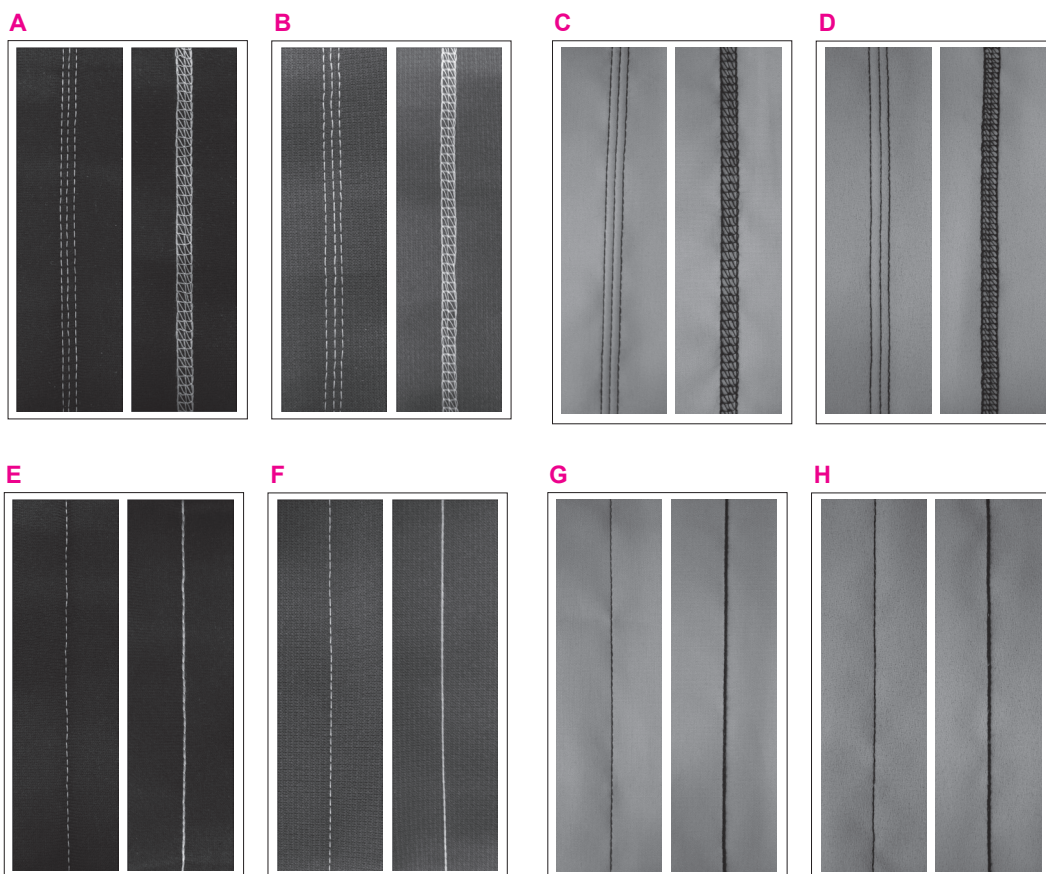
後歯の移動距離を、前歯の移動距離よりも大きくします。(D)



差動送りの調節

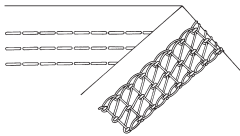
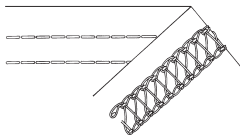
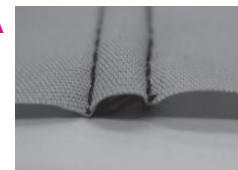
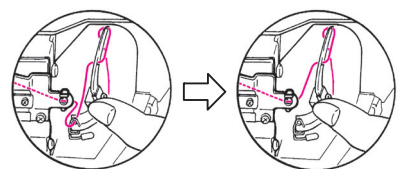
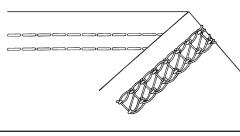
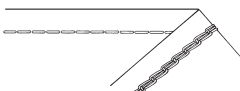
差動送りは、差動送り調節つまみを回して調節することができます。

必ず試し縫いを行ってください。差動送りは縫製しながら調節することができます。

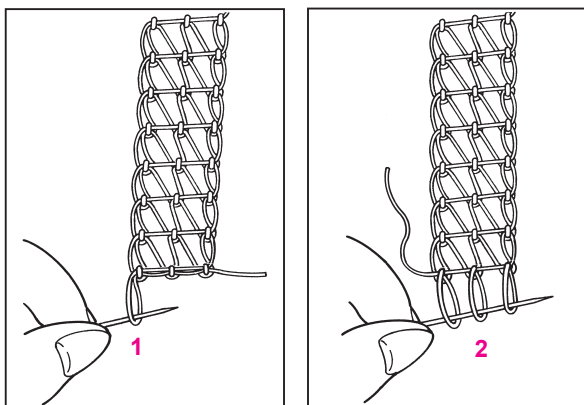


差動つまみ目盛	縫い伸びしやすい布地		N	縫い縮みしやすい布地
	2	1.5		0.7
カバーステッチ	<ul style="list-style-type: none"> • 厚地ニット地 • 厚地ジャージー • スウェット • その他伸びる布地 	<ul style="list-style-type: none"> • 中地ニット地 • ニットサテン • メリヤス • 綿ジャージー • ツーウェートリコットなど 	<ul style="list-style-type: none"> • 織布 	<ul style="list-style-type: none"> • ジョーゼット • リネン • ローン
	写真 A	写真 B	写真 C	写真 D
チェーンステッチ	<ul style="list-style-type: none"> • 厚地ニット地 • 厚地ジャージー • スウェット • その他伸びる布地 	<ul style="list-style-type: none"> • 中地ニット地 • ニットサテン • メリヤス • 綿ジャージー • ツーウェートリコットなど 	<ul style="list-style-type: none"> • 織布 	<ul style="list-style-type: none"> • ジョーゼット • リネン • ローン
	写真 E	写真 F	写真 G	写真 H

ステッチ一覧表

縫い目	糸調子	基本設定
<p>4本系カバーステッチ</p> 	<p>右針糸（青印）：3～5 中針糸（緑印）：3～5 左針糸（黄印）：3～5 ルーパー糸（紫印）：M</p>	<p>縫い目の長さ：3 差動送り比：N</p>
<p>3本系カバーステッチ（幅広）</p> 	<p>右針糸（青印）：3～5 左針糸（黄印）：3～5 ルーパー糸（紫印）：M</p>	<p>縫い目の長さ：3 差動送り比：N</p>
	<p>伸縮性の薄地でAのようになった場合、次のことをおすすめします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 押え圧調節つまみを「L」にする。 2. ルーパー糸調子ダイヤルを「L」にする。 3. 差動送り比を「N～0.7」にする。 4. ルーパーの糸案内に糸を通さない。 	<p>A</p>  
<p>3本系カバーステッチ（幅狭）</p> 	<p>中針糸（緑印）：3～5 左針糸（黄印）：3～5 ルーパー糸（紫印）：M</p>	<p>縫い目の長さ：3 差動送り比：N</p>
<p>2本系チェーンステッチ</p> 	<p>左針糸（黄印）：3～5 ルーパー糸（紫印）：M</p>	<p>縫い目の長さ：2.5 差動送り比：N</p>

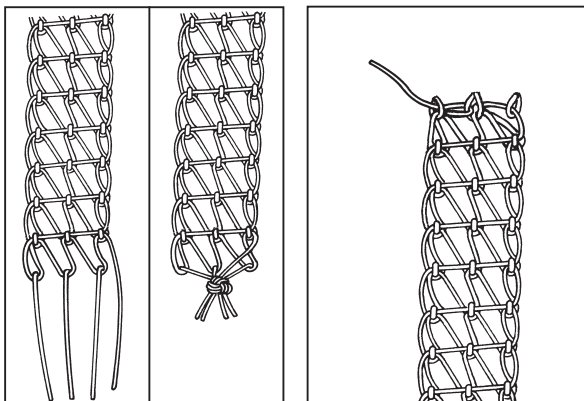
カバーステッチ縫い終りの糸の始末



縫い終りの糸の始末

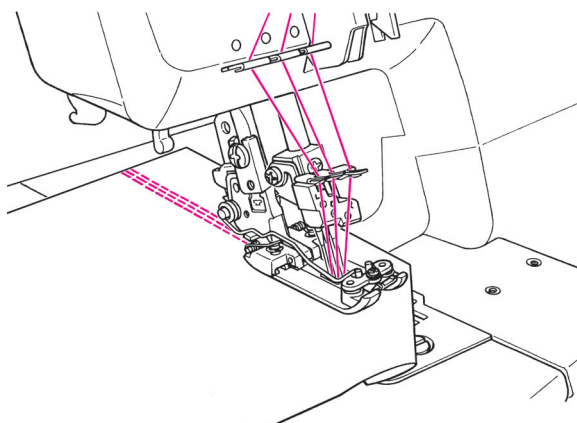
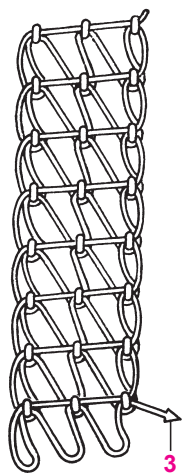
1. 図中(1)の輪になっているルーパー糸を左側に引っ張ります。
2. ルーパー糸を上側に抜き、針糸(右・中・左共に)を引っ張り出します。
3. 結びます。

* 縫い始めについては、自動的に次の縫い目でしっかりと締められます。



縫い目をほどきたい場合

1. この縫い目は、縫い終わり側のルーパー糸(3)を引っ張ることによってほどけます。
2. この後、表側から針糸を引っ張れば、針糸は抜けます。



補助ベッドのガイド線について

補助ベッドのガイド線は、布端からの一定の寸法で縫う時に使います。

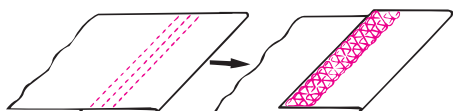
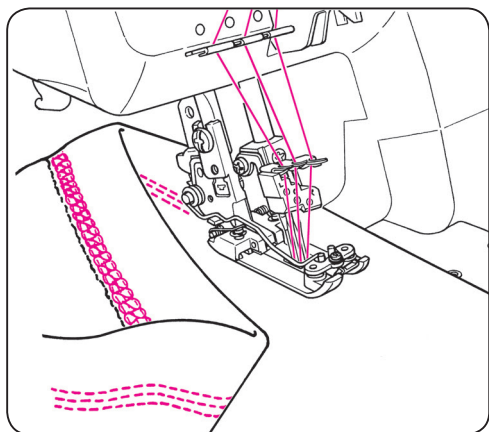
カバーステッチ使用例（1）

すそ上げ

この縫い方では、すそ上げが出来ると同時に、裏側の布端も縫い目で押え込まれます。

縫い目の長さ：3～4 mm

- ① すそ上げしたい幅を折り込みます。
- ② 布地を押えの下に置き、補助ベッドあるいは針板のラインにそって、布をガイドしながら送ります。

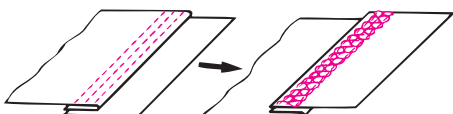
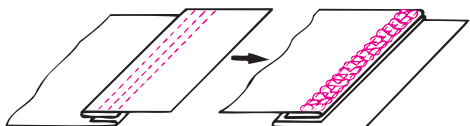
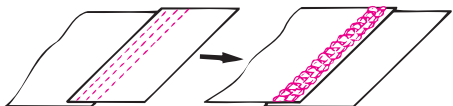
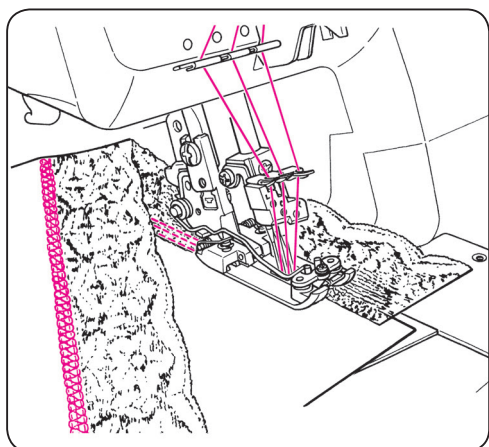


レース付け

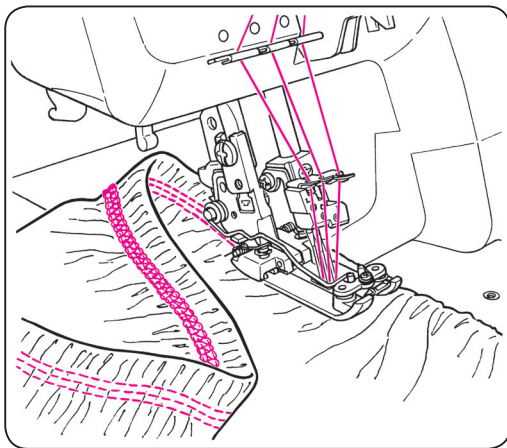
ゴムやレースを縫う時、それらを布地の上に置き、縫い代の上を縫うと裏側の布端も縫い目で押え込まれます。

縫い目の長さ：3～4 mm

- ① 上の布地の端を折り込みます。
- ② 上と下の布端を重ねます。
- ③ 押えのガイドに従って、布地の端をガイドします。



カバーステッチ使用例 (2)



ゴムテープ付け

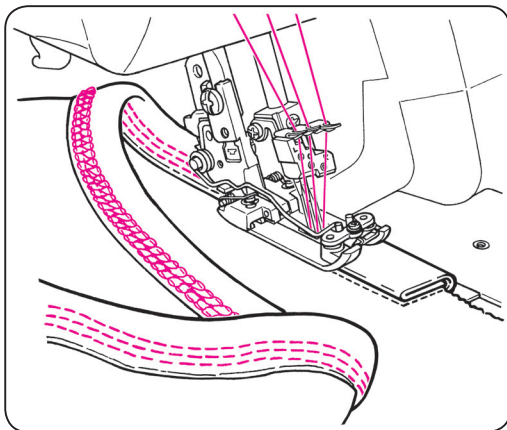
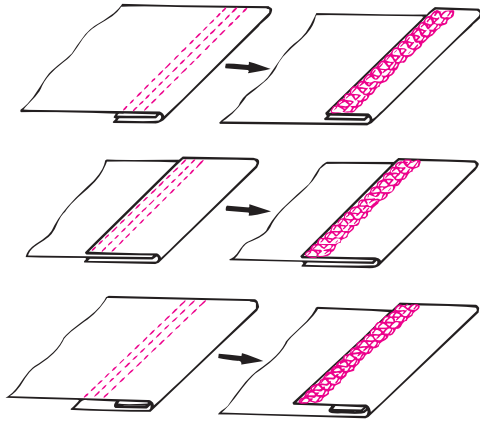
カバーステッチは、弾力性と耐久性があり、引っ張っても元に戻りますので、水着、トレーニングウェア、子供服、スカート、ズボンの腰バンドに向いています。

縫い目の長さ：3～4 mm

- ① ゴムの幅に、布を下側に回り込ませます。
- ② 表側からカバーステッチで縫います。
- ③ 押えの右端に沿って折り目をガイドします。(ゴムも布と同時に縫い込みます)

バリエーション：

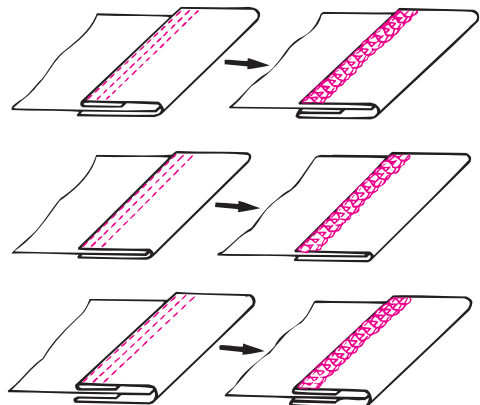
ゴムの幅より大きく布を下側に折り込み、ゴムをその内側に入れ込んでしまいます。ゴムを縫い込まずに、布端をカバーステッチで縫うことができます。



三ツ巻縫い

縫い目の長さ：3～4 mm

- ① 必要な幅に、バイヤステープや布地を切っておきます。
- ② 必要な幅にマークを付け、折り込みます。
- ③ 折り込んだテープを布端に沿ってガイドします。(はさみ込みます)
- ④ はさみこんだテープの左端を、押えの左側のガイドにそわせて縫います。
- ⑤ この時、裏側の布端は、縫い目で押え込まれます。



カバーステッチ使用例 (3)

リップ付け・伏せ縫い

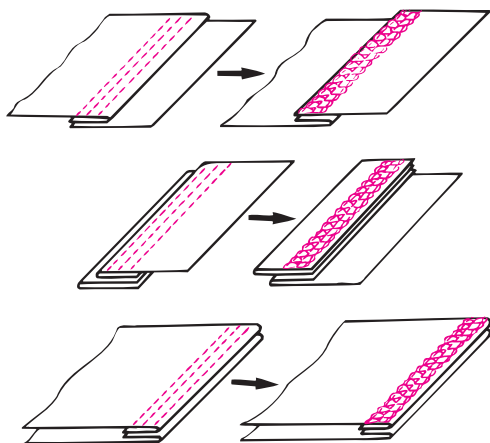
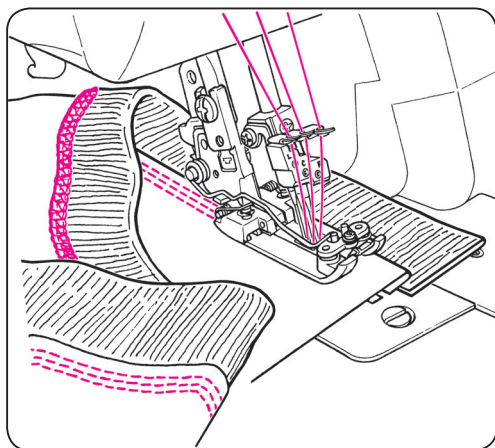
縫い目の長さ：3～4 mm

リップ付けの場合

- ① 布を折り込みます。
- ② 折り込んだ布端とリップを合わせます。
- ③ 押えの右側ガイドに沿って布端を縫います。

伏せ縫いの場合

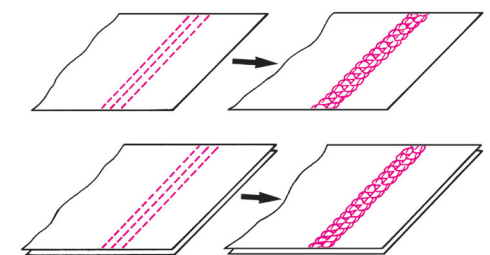
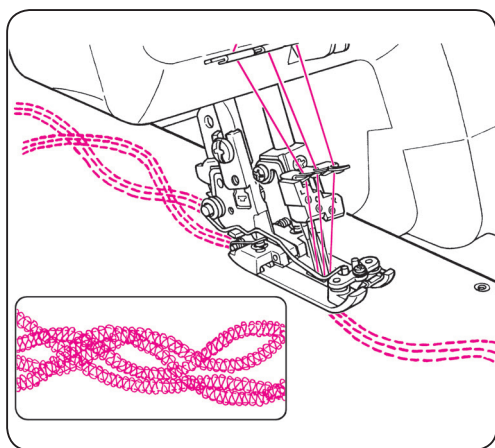
- ① リップと布をオーバーロックで縫い合わせます。
- ② その縫い目の部分を開きます。
- ③ 押えの右側ガイドに沿って縫います。
- ④ この時、オーバーロックの縫い目は、カバーステッチの縫い目で押え込まれます。



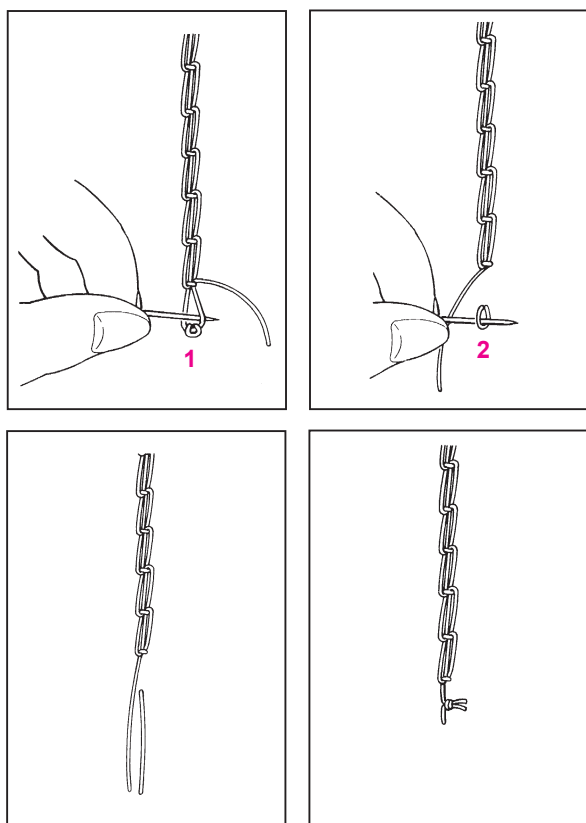
飾り縫い

縫い目の長さ：3～4 mm

- ① 布の裏側から縫って、表側が使えるように縫います。
- ② ルーパー糸に飾り糸を使うと効果が大きくなります。



チェーンステッチ縫い終りの糸の始末



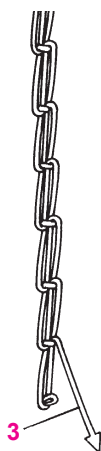
縫い終りの糸の始末

1. 図中（1）の輪になっているルーパー糸を左側に引っ張り出します。
2. 針糸を引っ張り出します。
3. ルーパー糸と針糸を結びます。

* 縫い始めについては、自動的に次の縫い目でしっかりと締められます。

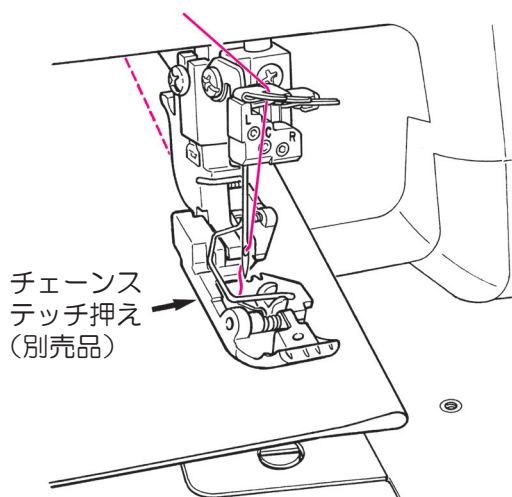
縫い目をほどこきたい場合

1. この縫い目は、縫い終わり側のルーパー糸（3）を引っ張ることによってほどこけます。
2. この後、表側から針糸を引っ張れば、針糸は抜けます。

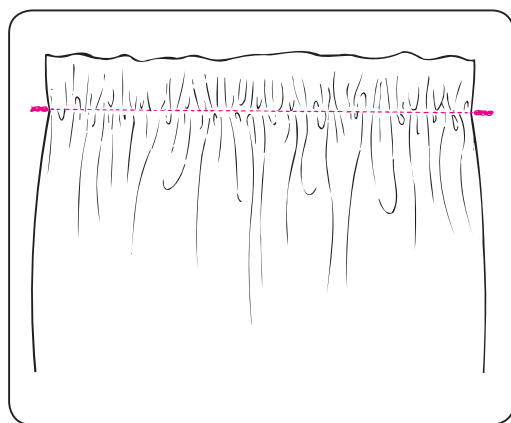


補助ベッドのガイド線について

補助ベッドのガイド線は、布端からの一定の寸法で縫う時に使います。



チェーンステッチ使用例

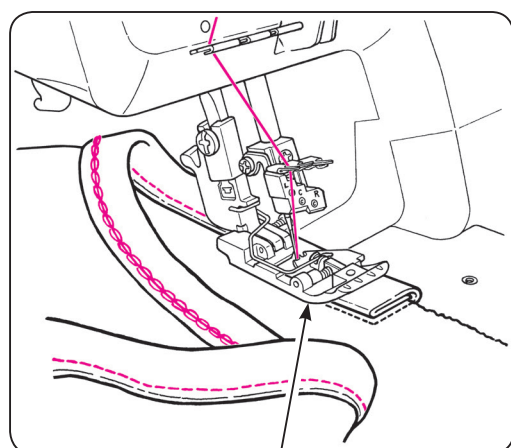


チェーンステッチによるギャザリング

一枚の布をチェーンステッチと差動調節によって縫うことができます。

縫い目の長さ：4 mm

差動送り比：2



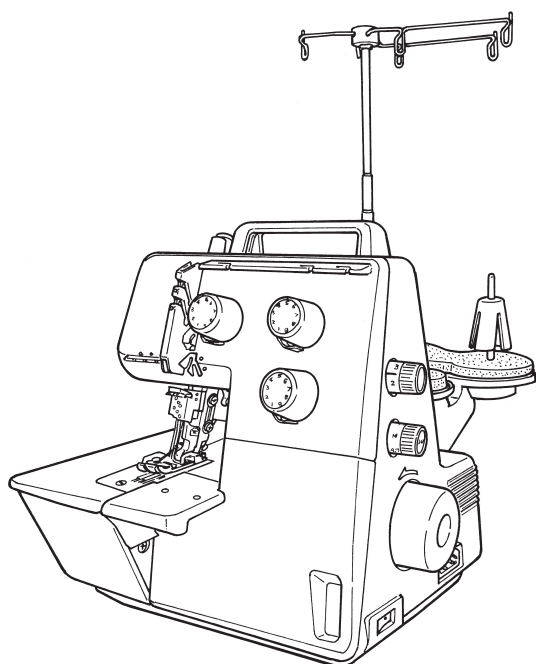
チェーンステッチによるバイアステープ付け

縫い目の長さ：3～4 mm

バイアステープで布端を包み込み、縫います。

チェーンステッチ押え
(別売品)

ミシンのお手入れ



掃除

⚠ 注意

掃除のときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜き電源を切ってください。

ミシンをご使用になりますと、綿ぼこりがたまりますので定期的にとり除きます。

故障かな・・・というときは

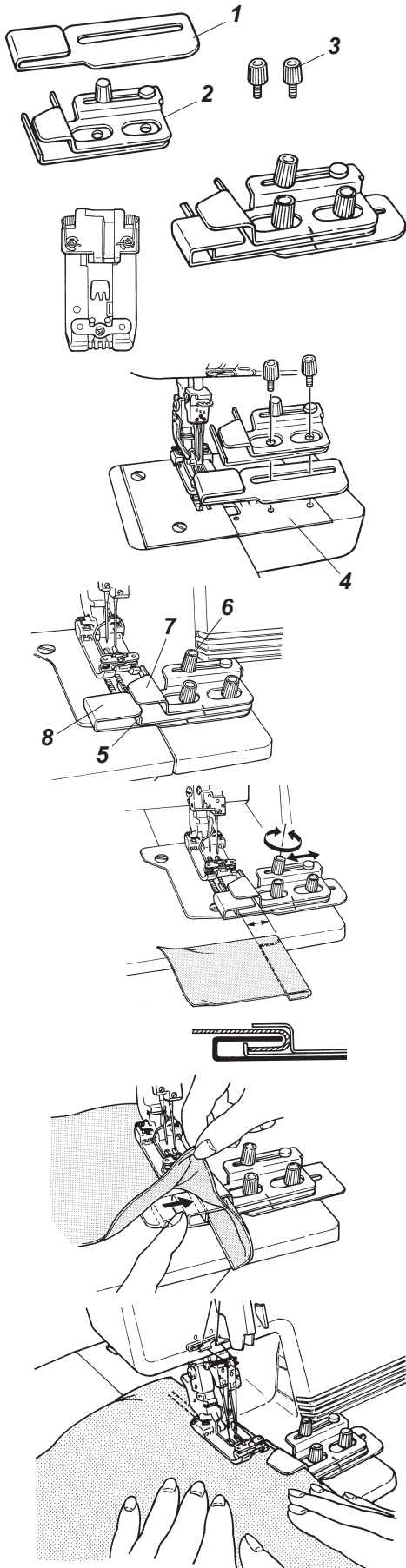
現象	原因(理由)	処置方法	ページ
布地を送らない場合	<ul style="list-style-type: none"> 押えの圧力が弱すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> 押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。 	22
糸が切れる場合	<ul style="list-style-type: none"> 糸調子が強すぎる時。 糸かけが間違っている時。 針の取り付け方が悪い時。 正しい針が使われていない時。 	<ul style="list-style-type: none"> 糸調子を弱くします。 正しくかけ直します。 針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。 家庭用針(130/705H)を使います。 	21 13-19 11 11
針が折れる場合	<ul style="list-style-type: none"> 針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。 針の取り付け方が悪い時。 縫っている最中に無理に引っ張った時。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい針に取り替えます。 針の平らな面を後側にして、一番奥まで挿入します。 布はていねいに両手でガイドします。 	11 11 -
目飛びがする場合	<ul style="list-style-type: none"> 針が曲がっていたり、針先がつぶれている時。 正しい針が使われていない時。 押えの圧力が弱すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい針に取り替えます。 家庭用針(130/705H)を使います。 押え圧調節つまみを右へ回し、押え圧力を強くします。 	11 11 22
縫い目の調子が悪い場合	<ul style="list-style-type: none"> 糸調子が不完全な時。 糸が引っかかる時。 	<ul style="list-style-type: none"> 糸が糸調子ダイヤルの皿の間にきちんと入っているかどうか確認します。 糸通しが間違っていないかどうか確認します。 	12 13-19
縫い目(縫った物)が伸びてしまって波打っている場合	<ul style="list-style-type: none"> 縫い中に布が引っ張られた時。 押え圧が強すぎる時。 差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 縫い中に布をひっぱったりせずに丁寧に布をガイドします。 押え圧を弱くします。 目盛を正しく合わせます。N~2 	- 22 23, 24
縫い目(縫った物)が縮んでしまっている場合	<ul style="list-style-type: none"> 糸調子が強すぎる時。 差動調節つまみの目盛合わせが正しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 糸調子を弱くします。 目盛を正しく合わせます。0.7~N 	21 23, 24
縫った後の布端がカールする場合	<ul style="list-style-type: none"> 糸調子が強すぎる時。 	<ul style="list-style-type: none"> 糸調子を弱くします。 	21

仕様表

縫い目	カバーステッチ： 3本針4本糸：針幅5mm 2本針3本糸：針幅5mm 2本針3本糸：針幅2.5mm チェーンステッチ：1本針2本糸
使用針	シュメッツ家庭用針 130x705H
かがり幅	カバーステッチ：5mm
縫い目の長さ	1～4mm
差動送り比	0.7～N(1)～2.0
押え上げ量	8mm / 10mm
押え	カバーステッチ押え（同梱品） チェーンステッチ押え（別売品）
はずみ車	反時計回りに回転
縫い速度	最大 1350 針 / 分
重量（本体）	6.8 kg
ミシンの大きさ	奥行 280 x 幅 335 x 高さ 285 mm

製品改良のため、本体の色・デザイン・仕様など予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

別売品



カバーステッチ用すそ引きガイド

部品

- 1 布案内板：1 個
- 2 ガイド：1 個
- 3 取り付けネジ：2 個

必要なもの

カバーステッチ押え

用途

すそ引きガイドを使用すると、布端を一定の幅で折り返しながらカバーステッチをすることができます。

ニット、織布または薄地の布でも、抵抗なくガイドに入れこむことができる布であれば使用することができます。

安全のために

付属品を使用する前に、オーバーロックミシンと付属の取扱説明書をよくお読みください。

組み立て

- ▶ 補助ベッドの上に布案内板をのせます。(4)
- ▶ その上にガイドをのせます。
- ▶ 2つの部品を取り付けネジ(2本)で固定します。

調節

- ▶ ガイド左(5)が左針と同じラインになるように位置を調節します。
- ▶ 調節ネジ(6)を緩めることによって、ガイド右(7)を左右に動かし、すそ引きの幅を調節できます。
調節範囲：15～23 mm
- ▶ 布案内板(8)を、布の厚さに応じて、2～4 mmのすき間を開けてガイドに入れます。
- ▶ 取り付けネジと調節ネジをしっかり締めます。
- ▶ 布が抵抗なく自由に動くことを確認します。

準備

- ▶ 4本糸カバーステッチ、3本糸カバーステッチ(幅広)、3本糸カバーステッチ(幅狭)いずれの場合も常に左針を使用します。
- ▶ ぬい目の長さを3～4にします。
- ▶ カバーステッチ押えを取り付けます。

手順

- ▶ 折った布を、布端をガイド左に当てるようにして、ガイドに添って押えの下に入れます。
- ▶ 押えを下げ、手でガイドに沿って布を送りながら縫います。
- ▶ 輪部を縫う場合、最初の縫い目がガイドに到達する前にミシンを停止させます。
- ▶ ガイドから布を取り出し、何針か最初の縫い目の上に縫い付けされるまで、手で布を案内します。
- ▶ 押えを上げて、糸を取り除きます。
- ▶ 必要に応じて、縫い目を確認してください。

別売品のお求めは、お買い上げ販売店にご相談ください。

■アフターサービスと保証

- このミシンには保証書がついています。
- 保証書は、お買い上げのお店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。
(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- このミシンは日本国内専用機種ですので、海外でのご使用はできません。また、海外での保証、アフターサービスは受けることができません。
- 保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げのお店にご相談ください。
当社は、このミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

JUKI

JUKI株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日(月～金) 9:00～12:00、13:00～17:00

Copyright © 2018-2023 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複写することを禁止します。

購入店名 後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

電話 (- -)
購入年月日: 年 月 日